

ちいさなちいさなエコのはなし

その二 「種をつなぎ、食文化を守ろう！ GM食品のお話」

大友 綾

雨の多いこの季節、ちょっとした晴れ間に見える空いっぱいの大きな虹を見つけるのが最近の私の楽しみです。そんな秋深まる今日この頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。今回は、遺伝子組み換え食品に関するお話です。

先月、アメリカでは「モンサント保護法」と呼ばれる包括予算割当法案が成立しました。これは、遺伝子組み換えに関する重要な条項が潜り込ませてあると問題になっています。この条項では、遺伝子組み換え作物の種子でも、法的に植え付けや販売を差し止めることが出来ないと定められています。遺伝子組み換え作物が危険だと証明されない限り、企業は遺伝子組み換え作物を生産し、売り続けることができるということになります。573ページもあるこの法案の一部にこの条項があり、アメリカ議会ではこの部分を議論されな
いまま、静かに承認されたようです。

日本に対する影響に関しては、この法案が承認されたことで、TPPを通じて非関税障壁の撤廃要求により遺伝子組換え表示制度がなくなり、どんどん遺伝子組み換え作物が入ってくるだろうと予想されています。そして、日本国憲法よりもTPP条約が上位に来てしまうため、アメリカの法案が日本に持ち込まれてしまい、自由にお米や野菜が作れなくなっていく（=自分たちで育て、採取した種子を使って農作物を栽培することができなくなっていく）とも懸念されています。（そのわけは下記で詳しく説明しています。）



さて、日本でもニュージーランドでも「遺伝子組み換え不使用」「GM Free」などと食品のパッケージに書かれており、なんとなく「遺伝子組み換えは危険なもの」ということは感じられますが、みなさんはこの遺伝子組み換え作物の何が危険なのかご存知でしょうか。

<GM（遺伝子組み換え）作物は 農薬が必要！？>

遺伝子組み換え作物の世界シェア90%以上を誇る大企業M社は、アメリカに本社を持つ多国籍生物化学（アグロバイオ）企業で、ベトナム戦争で使われた枯葉剤を開発したメーカーとしても有名です。このM社は、Roundup という除草剤とセットで使える遺伝子組み換え種子RoundupReadyを開発しました。これは、この種子でトウモロコシや大豆を栽培すると、除草剤をまくことで回りの雑草は枯れるけど、トウモロコシや大豆は枯れることなく栽培できる、というものです。どういうことかということ、これらの種子はRoundupに耐性があり、この農薬で汚染された土壌でも栽培可能となるようにつくられ

ているということになります。この農薬と種子をセットで販売することがM社の販売方法です。「この農薬は人体には影響がない」という主張ですが、虫や雑草が死んでしまう薬が、果たして人にとって何も問題がないものなの
でしょうか・・・

ちなみに、遺伝子組み換え作物の中には、他にも耐病性作物、害虫抵抗性作物などがあります。

<種ができない!？>

さらに、GM作物は、M社の知的所有権保護のため、「生物特許」という名のもと、健康な種子が実らないように作られています。これを一代雑種

(ハイブリット種：F1種)といいます。そのため、農家は毎年種子を購入しなければなりません。種子の自家採種ができないのです。では、種子が自家採種できないというのは、どのようなことを意味しているのでしょうか。



このF1というのは、一般的には有能な2種類の種のいいところを交配させる技術のことです。自家採種で作物を作ると、作物の品質に善し悪しが出てしまいますが、F1は非常に安定します。そこで農家は、毎年F1種を買うことになります。(日本では、稲、麦、雑穀、豆類 以外はほとんどF1種になっているのが現状なのだそうです。)

この農法の登場で地域特有の気候・風土にあった種子が激減し、商品価値の高い種子へと集中していきました。その結果、世界規模で種子の「均一化」という事態がおこり、作物の品種のバラエティーが激減してしまいました。

その土地その土地に暮らす人々の体にあった作物が世界からなくなっているのです。亜熱帯に住む人には体を冷やす作物が、亜寒帯に住む人には体を温める作物が、温帯に住む人には四季折々にあった作物で調和を図る・・・昔の人々は、様々な気候や風土に合わせてそこでとれる作物を上手に調理していただきました。それがこの種子の「均一化」のために失われてきているのです。

しかも、自家採種できないために、種子を買わなくてははいけません。M社は北米・南米の主たる種子会社をことごとく買収し、遺伝子組み換え作物の種子に切り替えてきました。世界第2位の大豆生産量を誇るアルゼンチンでは、90%以上が遺伝子組み換えの大豆になっているそうです。農家が普通の大豆の種子が欲しいと思っても、このような独占的状況においては、希望の種子を手に入れることができなくなっています。



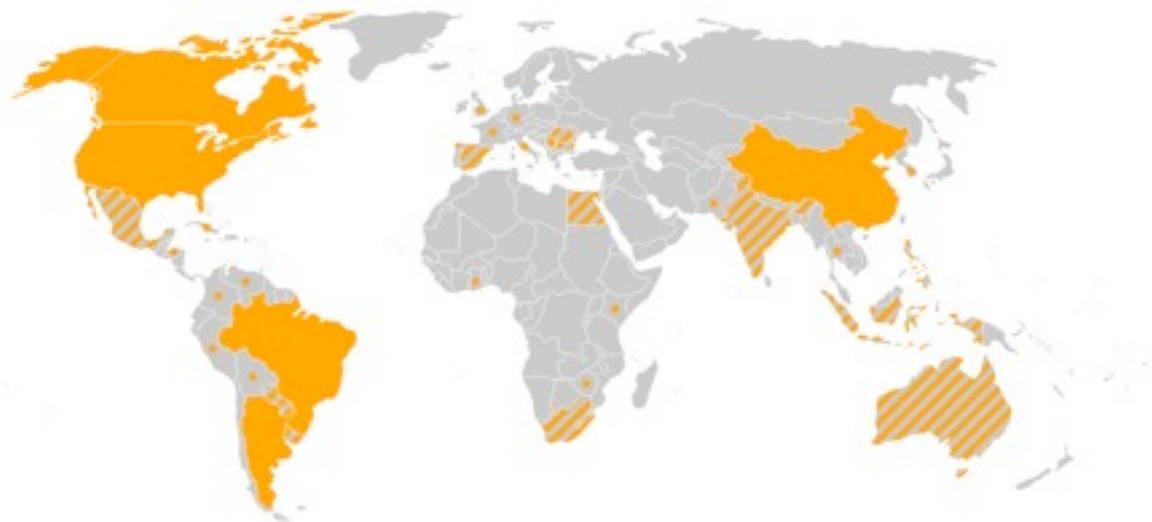
ちなみに、この遺伝子組み換えのF1種の作物を自家採種しようとするとうどうなるかという・・・このF

1種は「ターミネーター技術」と呼ばれる動物の遺伝子を植物に組み込むという技術が駆

使され、農家が自家採種した第2世代の種を播くと、胚芽の遺伝子にスイッチが入り、種の中に毒素ができ、種が自殺してしまうように作られています。自家採種しても、その種は芽がでないようになっているのです。植物に動物の遺伝子を組み込むという自然界に絶対に発生するはずのない作物が、自然交雑して既存食物の遺伝子を汚染するという問題も起きています。例えば、ナタネ。花粉が飛んでしまい、在来種のナタネを栽培している畑に遺伝子組み換えのナタネが交雑してしまうなどの問題が起こっています。

このような人為的に操作された作物がどのような影響を及ぼすのでしょうか・・・今の段階では、人体にどのような影響があるのか、定かではありません。これは、何十年もかけて、また次世代以降になってみないと結果が分からないものなのです。どのような影響が及ぶのかがわからない食べ物を、子ども達に与えてしまってよいのでしょうか・・・

さて、そんな怖い現状ですが、希望の光もあります。日本とニュージーランドは、どちらもこの遺伝子組み換え作物を作らないと国で定めている、先進国の中では数少ない国のうちの二つです。日本では、北海道、新潟県など10都道府県では実質的に栽培が禁止されています。しかし現状は、購入した種子に遺伝子組み換え作物の種子が混入しており、それを栽培してしまった事例があったりするようです。



<世界のGM作物栽培国>

塗りつぶしてある5カ国はGMOの95%を生産。

斜線の国々はGMOを栽培。

点々の国々は屋外での実験栽培が許可されている。

この日本の立場
TPPに加盟する

崩されてしまう恐れがあります。これからの日本の政治の動向が大変気がかりです。

を、
ことで

<「遺伝子組み換え不使用」という表示の真相>

日本では、JAS法や食品衛生法に基づく遺伝子組み換え食品の表示が義務づけられていますが、表示義務の対象になる作物は、大豆（枝豆、もやしを含む）、とうもろこし、ばれいしょ、なたね、綿実の5種類の農産物と、これを原材料とした加工品です。

問題なのは、5品目以外の農産物およびその加工食品は、「遺伝子組み換えでない」旨の表示は出来ない点、そして、大豆、とうもろこしについては、分別生産流通が適切に行われていれば、5%以内の意図せざる混入があった場合も、「遺伝子組み換えでない」旨の表示が認められている点です。韓国では3%、EUでは0.9%が上限だそうで、日本の数値はかなり高いものだと言えます。

ニュージーランドでは、遺伝子組み換え食品を販売するには、その安全性や栄養などに関して、政府が作った評価基準を満たして、その販売の許可を取らなければなりません。また、遺伝子組み換え食品の味・色・栄養価や使用方法が元の食品と違うものについては、その表示が義務づけられています。消費者が自分の目で確かめて商品を選ぶことに重点が置かれているようです。

<わたしたちにできること>

放射能汚染作物に注目が集まる昨今、政治情勢で安全性が損なわれる危険性のある遺伝子組み換え食品のことも忘れてはいけません。この遺伝子組み換え作物をこれ以上増やさないためには、まず第一に、消費者が正しい知識を持ち、商業戦略に踊らされずに、本当に安全なものを自分で選ぶことが大切だと思います。そして、我が子達、その子ども達、そのまた子ども達、と何代も先の子ども達のことを考え、生きた農作物を育て、健やかな種をはぐくみ、それを受け継いでいくこと、そして古くから伝わるそれぞれの地域にあった食文化を守っていくことが、私たち大人が果たすべき義務なのではないかと思えます。



真の意味で生命力あふれる自然の恵をいただき、その恵に感謝すること。私たち大人がそうすることで、その姿を見て、子ども達も「大切なものは何か」を学んでいってくれるのではないのでしょうか。「命あるものをいただく」。一人でも多くの方と、この気持ちが共有できたら幸いです。

<参考文献/ウェブサイト>

- ・Wikipedia「遺伝子組み換え作物」<http://ja.wikipedia.org/wiki/遺伝子組み換え作物>
- ・「食を守る 問題点と解決策」<http://www.greenpeace.org/japan/ja/campaign/food/details/>
- ・サルでもわかるTPP http://project99.jp/?page_id=75
- ・食の安全情報blog <http://d.hatena.ne.jp/ohira-y/>
- ・食育・食生活指針の情報センター <http://www.e-shokuiku.com/kikaku/>
- ・日本モンサント株式会社 <http://www.monsanto.co.jp>

<大友 綾>

小田原での小学校教員時代は、環境教育や野外活動教育の研究にも取り組む。サステイナブルな生活環境、エコロジーな生活を目指して日々奮闘中。スクールホリデーには、夫婦で子ども向け科学・自然体験ワークショップ「わんぱく塾」を不定期に実施中。

